

令和5年度 「公共」 シラバス

科目	公共	単位	2	学年	1
使用教科書	高等学校 新公共(第一学習社)			副教材等	「新公共ノート」(第一学習社)

学習の到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につけている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。

学期	月	大項目 編	中項目 章	単元名 節	学習内容	評価の観点			評価方法
						知	思	態	
1 学期 の評価	4	第1編 公共の扉	第1章 公共的な空間をつくる私たち		オリエンテーション				<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト プリント提出 定期考査
					①社会に生きる私たち	○	○		
					②個人の尊厳と自主・自立	○	○		
					③多様性と共通性	○	○	○	
					④伝統文化とのかかわり	○	○		
	⑤自立した主体をめざして		○	○	○				
	5		第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		①人間と社会のあり方についての見方・考え方	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト プリント提出 定期考査
					○実社会の例から考える～環境問題	○	○	○	
					○実社会の例から考える～生命倫理	○	○		
					【1学期中間考査】	○	○	○	
	6	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	第1章 法的な主体となる私たち	法や規範の意義と役割	①私たちと法	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト プリント提出 定期考査
					②法と基本的人権				
③自由に生きる権利と法・規範					○	○			
④平等に生きる権利と法・規範					○	○			
⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範					○	○			
⑥法をよりよいものにするための権利					○	○			
契約と消費者の権利・責任				①さまざまな契約と法	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト プリント提出 定期考査 	
②消費者の権利と責任	○	○							
7	第2章 政治的な主体となる私たち	政治参加と公正な世論形成	司法参加の意義	①裁判所と司法	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト プリント提出 定期考査 	
				②国民の司法参加	○	○			
				【1学期期末考査】	○	○			
2 学期 の評価	7				①私たちと選挙	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト プリント提出 定期考査
					②選挙の現状と課題	○	○		
					③世論の形成と政治参加				
					④国会と立法	○	○		
					⑤内閣と行政	○	○		
					⑥地方自治と住民福祉	○	○		

3 学期の 評価	9	国際社会 と国家主 権	①国家と国際法	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査		
			②国境と領土問題					
			③国際連合の役割と課題	○	○			
			日本の安全 保障と 防衛	①平和主義と安全保障	○		○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
				②日本の安全保障体制の変容				
				③核兵器の廃絶と国際平和	○		○	
	10	国際社会 の変化と 日本の役 割	①今日の国際社会	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査		
			②人種・民族問題と地域紛争	○	○			
			③国際社会における日本の役割	○	○			
			【2学期中間考査】	○	○			
	11	雇用と労働 問題	①私たちと経済	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査		
			②労働者と権利	○	○			
			③労働環境と課題	○	○			
		社会の 変化と職業 観	①日本経済のこれまでとこれから	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査		
			②技術革新の進展	○	○			
			③現代の企業	○	○			
	④中小企業の現状と役割		○	○				
		⑤日本の農林水産業	○	○				
		【2学期期末考査】	○	○	○			
	12	市場経済 の機能と 限界	①市場経済と経済運営	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査		
②市場のしくみ			○	○				
③経済発展と環境保全			○	○				
④国民所得と私たちの生活			○	○				
⑤経済成長と国民の福祉			○	○				
金融の はたらき	①金融の意義と役割	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査				
	②金融のいま	○	○					
1	財政の 役割と社会 保障	①財政のしくみと租税	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査			
		②日本の財政の課題	○	○				
		③社会保障と国民福祉	○	○				
		④これからの社会保障	○	○				
2	経済の グロー バル 化	①国際分業と貿易	○	○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査			
		②国際収支と国際経済体制	○	○				
		③外国為替相場の動き	○	○				
		④グローバル化する経済	○	○				
		⑤地域的経済統合	○	○				
		⑥国際社会における貧困や格差	○	○				
		⑦地球環境問題	○	○				
		⑧資源・エネルギー問題	○	○				
		⑨国際社会のこれから	○	○				
		【学年末考査】	○	○				
3	第3編 持続可能な社会づくりの 主体となる私たち	①排出権取引を考える～地球環境問題			・授業態度 ・提出課題 ・プリント提出 ・発表			
		②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題						
		③ゲノム編集を考える～生命倫理						
		④インターネットによる投票を考える～情報	○	○				
		⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題						

令和5年度「倫理」シラバス

科目	倫理	単位	2	学年	2
使用教科書	高等学校 倫理(第一学習社)			副教材等	なし

学習の到達目標	<p>人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしている。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて、多面的・多角的に考察しようとしたりしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方					
	第1章 人間の心と自己形成					
	1 青年期の課題と自己形成 1. 人間とは何か 2. さまざまな人間の心のあり方 3. 自立して生きる主体の形成	<p>■青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもとに、様々な人間の心のあり方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の特質とは何かを理解している。 ・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えている。 ・人間がどのように感じ、学び、考え、行動し、発達するかに関して、心の仕組みと成り立ちを理解している。 ・様々な人間の心のあり方を踏まえて、人間とは何かを思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めている。 ・様々な人間の心のあり方について、科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果を読み取ったり、対話や作文などを通して学習を深めたりしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
5	第2章 人間の存在や価値と宗教					
	1 ギリシアの思想 1. 哲学の形成 2. 哲学の確立 3. ギリシア思想の展開	<p>■古代ギリシアの思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシアに見られる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解している。 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察している。 ・「ソクラテスのことば」から、「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取っている。 ・ソクラテスの言行やプラトン、アリストレスの思想、ヘレニズムの思想から、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて思索している。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	2 ユダヤ教とキリスト	■キリスト教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を				<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
6	教 1. ユダヤ教の世界 2. イエス 3. キリスト教の発展	<p>説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解している。 原罪や恩寵の思想に見られるキリスト教の人間観について、自己の課題と重ね合わせて思索している。 イエスの言行やパウロ、古代中世のキリスト教の思想から、人間をどのように捉え、どのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	3 イスラーム 1. イスラーム	<p>■イスラームをもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解している。 『クルアーン』について、日常の生活で行うことまで規定していることを読み取れている。 メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感している。 ムハンマドの言行などから、社会の中で人間がどのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と結び付けて思索している。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	4 仏教 1. インドの思想文化 2. 仏教の誕生と展開	<p>■仏教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> インドの人々は、どのような生死観をもっているかを理解している。 ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解している。 日本になじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察している。 仏教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることを目指しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と重ね合わせて思索している。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	5 中国の思想 1. 儒家の思想 2. 儒家以外の諸流派	<p>■儒教などの中国の思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国の人々の自然観・人生観を理解している。 仁や礼の言説を取り上げ、人間についての見方や、望ましい人間関係を築きながらどのように社会生活を送るかについて、自己の課題と結び付けて思索を深めている。 儒教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることを目指しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	6 宗教や芸術 1. 宗教や芸術	<p>■人生における宗教や芸術のもつ意義について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人生に関わる課題は、古今東西の宗教や芸術によって探究されてきた課題でもあり、その解決のために宗教や芸術が誕生してきたことを理解している。 芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、自らの生き方と関わらせて思索を深めている。 芸術家が作品に込めた問いかけなどを、社会背景を踏まえて主体的に考えている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	7	第3章 人間のあり方と社会				
	1 人間の尊厳 1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. 人間性の探究	<p>■人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ルネサンス期の思想家やモラリストたちの思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを理解している。 現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。 ルネサンス期の絵画などから、ルネサンス期の人間観を、主体的に考えている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	2 科学革命の時代と自	<p>■人間は自然をどのように捉えてきたかを理解する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 授業態度

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
9	然観 1. 科学革命の時代 2. 経験論と合理論	<ul style="list-style-type: none"> 近代の科学は、どのような背景から生まれてきたのかを理解している。 ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観を理解している。 ベーコンやデカルトの科学的な考え方を踏まえ、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。 経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて考察している。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	3 自由で平等な社会の実現 1. 社会契約の思想 2. 人格の尊厳と自由 3. 人倫と自由の実現 4. 功利主義の思想 5. 実証主義と進化論	<ul style="list-style-type: none"> 社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 社会契約説は、人間をどのように捉え、どのような社会を理想としたのかを理解している。 近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察している。 現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。 カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解している。 西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察している。 ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解している。 功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげて思索している。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	4 人間性の回復と主体性の確立 1. 社会主義の思想 2. 実存主義の思想 3. プラグマティズムの思想	<ul style="list-style-type: none"> 社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、プラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 社会主義の変遷をもとに、自由で平等な社会について考察している。 実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解している。 主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察している。 略伝や原典資料を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を主体的に学んでいる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
10	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想					
	1 現代の思想と人間像 1. 心の深層と無意識 2. 生の哲学と現象学 3. フランクフルト学派 4. 構造主義・言語哲学 5. 他者と偏見 6. 正義と社会	<ul style="list-style-type: none"> 現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 生の哲学と現象学、構造主義・言語哲学など、現代思想の特徴を理解している。 現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察している。 ロールズ、センらの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	2 生命への畏敬と社会参加 1. 生命への畏敬とボランティア	<ul style="list-style-type: none"> 社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解する。 実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解している。 様々な思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方とはどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察している。 思想家のことばから、生涯をかけて自らの思想を実践した生き方をつかむ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚					
	1 日本固有の思想 1. 日本の風土と伝統	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方との関係を理解する。 古来の日本人の心情と考え方は、日本の風土で生活する中で育まれたことを理解している。 日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方、望ましい対人関係を考察している。 古来の日本人の心情と考え方をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
11	2 外来思想の受容 1. 日本仏教の展開 2. 伝統思想の成熟 3. 日本儒学の展開	<p>て、主体的に考えている。</p> <p>■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、外来思想の受容との関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを理解している。 法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をもとに検討する。 外来思想の受容をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	3 町人思想のめざめと庶民思想 1. 国学の成立 2. 庶民の思想	<p>■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、国学や江戸時代の庶民の思想との関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういうものかを理解している。 義理と人情、儉約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかを考察している。 国学の思想と私たちの考え方で、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを考察している。 国学や江戸時代の庶民の思想をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	4 西洋思想との出会い 1. 幕末の思想 2. 明治の啓蒙思想 3. 日本社会とキリスト教 4. 近代的自我の確立 5. 社会思想の展開 6. 近代日本の思想課題	<p>■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、西洋思想の受容との関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたのかを理解している。 日本の近代思想がどのように展開していったのかを理解している。 日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方を考察している。 日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について主体的に考えている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
1	第2編 現代の諸課題と倫理					
	第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理					
	1 生命の問題と倫理課題 1. 生殖医療と遺伝子操作 2. 脳死臓器移植と再生医療 3. 自己決定の尊重と末期医療	<p>■生命との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義を思索している。 探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 生命をめぐる問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 レポート作成 発表 定期考査
2 地球環境の問題と倫理的課題 1. 地球環境問題 2. 生物多様性と自然環境 3. 予防原則と世代間倫理	<p>■地球環境との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の生命は自然の生態系の中で植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、共存関係が大切であることについて思索している。 探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 地球環境をめぐる問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 レポート作成 発表 定期考査 	

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
2	3 科学技術の進展と倫理的課題 1. 高度情報通信技術の進展と私たちの生活 2. 先端科学技術の利用と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> ■科学技術との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・科学技術の進展を踏まえ、AIをはじめとした先端科学技術の利用と人間生活と社会のあり方について思索している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・科学技術をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理					
	1 福祉の向上と倫理的課題 1. 多様性のある社会 2. さまざまな他者との協働 3. 地域共生社会と家族	<ul style="list-style-type: none"> ■福祉について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・ボランティア体験など福祉に関わる多様な体験をもとに、思索を深めている。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
3	2 文化と宗教の影響と倫理的課題 1. 文化や宗教の理解と現代世界 2. 異文化理解と多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ■文化と宗教について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	3 国際平和と倫理的課題 1. 持続可能な社会の形成 2. 世界のなかの日本人としての生き方	<ul style="list-style-type: none"> ■国際平和について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・平和について、人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

令和5年度 歴史総合シラバス

科目	歴史総合	単位	2	学年	2
使用教科書	高等学校 新歴史総合(第一学習社)			副教材等	新歴史総合ノート(第一学習社) ダイアログ歴史総合(第一学習社)

学習の到達目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に構想したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者としてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
4	②歴史の特質と資料	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
4	第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 近代化への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
5 9	第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設 第3節 結び付く世界と日本の開国 第4節 帝国主義とアジア諸国の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		<p>たり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 		○		
9	近代化と現代的な諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
10 11	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
11 12	第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性 	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		<p>格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>			○	
12	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	<p>・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。</p> <p>・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○		○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
1	第3章 グローバル化と私たち グローバル化への問い	<p>・冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。</p> <p>・グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○		○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
1 2	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	<p>・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。</p> <p>・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。</p> <p>・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○		○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
2 3	第2節 世界秩序の変容と日本	<p>・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。</p> <p>・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。</p> <p>・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○		○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
3	現代的な諸課題の形成と展望	<p>・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。</p> <p>・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○		○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>

令和5年度「地理A」シラバス

科目	地理A	単位	2	学年	3
使用教科書	『高等学校 地理A』(第一学習社)			副教材等	『新版 地理Aノート』(第一学習社)

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付け、地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、考察の過程や判断した結果を適切に表現する。	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	4 5	1 編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	◆緯度・経度の基本的なしくみを、位置の異なる諸地域の比較を通じて理解する。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ討議 ・定期考査
		1 章 地球儀や地図でとらえる現代世界	◆地球の自転と公転が、季節や昼夜の長さの変化に関係していることを理解する。				
		1 球面で世界を考えよう	◆緯度の違いが、世界各地の気候や人々の生活、地域区分に関係していることを考察する。				
		2 世界地図の特徴を知ろう	◆経度の違いと時差のしくみについて、身近な題材や国土が東西に広い国々の事例をふまえて理解する。				
		3 世界観の広がりや地図	◆国境や領土をめぐる問題について考察する。				
		4 国家の領域と領土問題	◆冷戦終結後もあいつぐ地域紛争や地球的な課題を解決するために、国連の重要性が増していることを考察する。				
		5 国家を超えた結びつき	◆交通機関の発達が私たちの生活に与えた影響について理解する。				
		6 交通機関の発達と縮小する地球世界	◆情報通信技術の発達・普及が私たちの生活に与えた影響について理解する。				
	6 7	7 情報・通信で一体化する世界	◆グローバル化が私たちの日常生活に与えた影響について学習し、人や「もの」・資本の国際移動について考察する。				
		8 人・「もの」・資本で結びつく世界	◆河川がつくる山地・平野のさまざまな地形について、侵食・運搬・堆積などの作用をふまえて理解する。				
		2 章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	◆海岸でみられる地形の成り立ちと種類、特徴について、人々の生活とのかかわりをふまえて理解する。				
		1 さまざまな場環境で暮らす人々	◆世界の地形の成り立ちについて地球規模で考察する。				
		2 世界的視野から見た地形	◆氷河地形・カルスト地形・乾燥地形の成り立ちと種類、特徴について、人々の生活とのかかわりをふまえて理解する。				
		3 さまざまな地形と生活					
	4 世界的視野から見た気候	◆気候の特徴と人間生活とのかかわりについて考察する。					
	5 世界の気候と生活	◆気候は、気温・降水量・風などの気候要素から構成されていることを、気候因子の影響をふまえて理解する。					
		◆ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。					
		◆熱帯における各気候区の分布や特徴について理解する。					
		◆乾燥帯における各気候区の分布や特徴について理解する。					
		◆温帯における各気候区の分布や特徴を理解する。					

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
2	11	7 ロシアとその周辺諸国の暮らしを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域による自然環境に対応したヨーロッパの農業について理解する。 ◆ヨーロッパでの産業の発達の歴史と、近年の工業地域の変化とその特徴を理解する。 ◆EUの統合・拡大によってどのような課題を抱えるようになったのかを考察する。 ◆南北差と東西差に注目して、広大なロシアの自然環境の特徴を理解する。 ◆世界一広大な国土面積をもつロシアは、どのような歴史を経て現在の国になったのか、政治体制や経済の変化に注目して理解する。 ◆ロシアの農業の特色やロシア経済を支える資源をめぐる動き、外国企業との関係について理解する。 ◆アメリカ合衆国とその周辺の自然環境にはどのような特徴があるのか、地形や気候の東西差に注目して理解する。 ◆移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。 ◆アメリカ合衆国の自然環境に適した農業地域の特徴とその背景について理解する。 ◆アメリカ合衆国の先端技術産業が世界をリードしている背景を理解する。 ◆NAFTAを通じてアメリカ合衆国やメキシコとの結びつきの変化を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ討議 ・定期考査
		8 北アメリカの暮らしを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ラテンアメリカの自然環境について、南北と標高で異なる特徴に注目し、理解する。 ◆ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違いについて理解する。 ◆ラテンアメリカの伝統的農業や大土地所有制などの特徴を理解する。 ◆かつてはモノカルチャー経済の傾向が強かったラテンアメリカの産業がどのように変化しているのかを、工業化の進むブラジルを事例に考察する。 ◆オーストラリアとその周辺の自然環境について注目し、理解する。 ◆オーストラリアの多文化社会はどのように形成されてきたのか、移民の出身国の変化をもとに理解する。 ◆自然環境に適応した農業が行われていることを降水量に注目し、理解する。 ◆豊富な鉱産資源とエネルギー資源を輸出するオーストラリアの鉱工業について理解する。 	○	○	○	
12	9	9 中央・南アメリカの暮らしを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ◆地球規模で直面している深刻な課題について、どのような地域の特徴があるかを理解する。 ◆地球的課題について、世界の国々がどのように対応しているのか考察する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ討議 ・定期考査
		10 オセアニアの暮らしを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ◆発展途上国に多くみられる人口増加の例として、インドの人口問題を考察する。 ◆都市への人口集中が世界的に進んだ背景と、どのような都市問題が発生しているのか理解する。 	○	○	○	
		4章 私たちが直面する地球的課題	◆世界の食料生産・消費には著しいかたよりがあることを理解する。	○	○	○	
		1 地球的課題の地理的な側面	◆南北格差や国内所得格差を世界的視野で学習する。	○	○	○	
		2 人口問題	◆世界の資源・エネルギー問題とその取り組みについて学習する。	○	○	○	
		3 食料問題	◆世界で起こるさまざまな環境問題について理解する。	○	○	○	
		4 都市・居住問題	◆私たちは地球市民の一人として何ができるのかを考察する。	○	○	○	
5 資源・エネルギー問題							
6 地球環境問題							
7 地球的課題への取り組みと国際協力							

令和5年度 「政治・経済」シラバス

科目	政治・経済	単位	2	学年	3
使用教科書	「高等学校 新政治・経済」(第一学習社)				副教材等

評 価 の 観 点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につけ、現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料をさまざまなメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見出し、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに社会の変化やさまざまな立場、考え方を踏まえ公正に判断し、考察した過程や結果をさまざまな方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について主体的に考えようとする。

学期	月	学 習 項 目	学習内容 (ねらい) および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	4	第1編 政治に親しむ 第1章 政治の基本原則を知るための4項目 ①現代と政治 ②民主政治の基本原則 ③民主政治のあゆみ ④世界の政治制度	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 ・基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、現代の政治の特質について考察する。 ・自由権と社会権の違いと人権保障の背景を理解し、民主主義についても考察する。 ・各国の状況をインターネットや書籍を利用して調査する。 ・民主主義のあり方について理解するとともに、現代政治の特質について把握する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・課題提出
	5	第2章 日本国憲法を知るための7項目 ①日本国憲法の基本的性格 ②基本的人権の保障(平等権) ③基本的人権の保障(自由権) ④基本的人権の保障(社会権) ⑤基本的人権の保障(参政権) ⑥基本的人権の保障(新しい人権) ⑦日本国憲法の平和主義	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程を理解しながら、日本国憲法のもつ意味について考察する。また、三大原理についても理解する。 ・日本国憲法の全体像にふれながら、平和や人権などの問題を考える。 ・基本的人権、新しい人権について、意欲的に理解を深め、その本質を把握する。 ・人権に関する判例を活用しながら、権利と義務などについて理解する。 ・人権を主張する際、時として「公共の福祉」が絡むことを理解する。 ・自衛隊・憲法改正問題など昨今の憲法に関するさまざまな論点について感心を深める。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・課題提出
	6	第3章 政治のしくみを知るための6項目 ①国会のしくみと役割 ②内閣のしくみと役割 ③裁判所のしくみと人権保障 ④政治と政党 ⑤選挙制度のしくみ ⑥世論と現代民主政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を深める。 ・国会・内閣・裁判所の関係とそれぞれの役割について、意欲的に理解する。 ・日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。 ・国会・内閣・裁判所に関する題材をさまざまなメディアを通して収集する。 ・法律の制定過程や裁判のしくみなどについて正しく理解する。 ・内閣の権限や違憲法令審査権について、正しく把握する。 ・望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。 ・選挙制度について学び、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識する。 ・マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて認識する。 ・選挙結果の分析などを、新聞・テレビ・週刊誌・インターネットなどのさまざまな情報手段を活用して調査する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・課題提出 ・定期考査

		⑥労使関係と労働市場 ⑦少子高齢社会と社会保障 ⑧住民生活と地方自治 ⑨大きな政府と小さな政府	<ul style="list-style-type: none"> ・政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。 ・財政にはどのような機能と役割が求められているか、日本の財政の課題は何かを理解する。 ・金融機関の果たしている役割、中央銀行の金融政策について理解する。 ・第二次世界大戦終結から現在まで、日本の経済発展のあゆみについて年表を使って理解し、現在の日本経済の課題と新たな取り組みについて考える。 ・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、新聞やインターネットを活用して身近な問題と関連させて考察する。 ・中小企業の現状と役割について理解する。 ・日本の農業政策の推移を理解し、これからの日本の農業、食料政策などの問題について考える。 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・課題提出 ・定期考査 	
3	1 ～ 2	第2章 国際社会が挑む6つの課題 ①地球環境問題 ②核兵器と軍縮 ③人種・民族問題 ④国際経済格差の是正と国際協力 ⑤経済・文化摩擦と外交 ⑥国際社会における日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会における課題は複雑なものであり、そのため国際的な視点から追究しながら、日本の役割について考察する。 ・国際社会の課題は、政治・経済の枠をこえたものが多く、国際関係に大きな影響を与えることを認識する。 ・さまざまな観点から課題を追究する態度を身につけ、国際社会における日本の役割について考察する。 ・身の回りの具体的な事例をもとに、地球環境問題などの世界的な諸問題について考察する。 ・第1編・第2編の学習の成果の上立って課題を追究する。 ・国際社会における諸課題を日本の立場や役割から考察する。 		○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・課題提出 ・卒業考査

令和5年度 「沖縄の歴史」 シラバス

科目	沖縄の歴史	単位	2	学年	3	
使用教科書	『高等学校 琉球・沖縄の歴史と文化』(東洋企画)				副教材等	

学習の到達目標	地域の歴史（沖縄本島、宮古・八重山）について知り、日本史・世界史との関わりを理解する。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付け、諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付ける。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、考察した過程や結果を適切に表現する。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、沖縄県民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

期	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a			b			c			評価方法
				a	b	c	a	b	c	a	b	c	
1	4 5	1学期（4月～7月） 導入：沖縄の伝統文化と行事 第1章 先史時代の沖縄(概説) 1 琉球列島の起源 2 琉球列島の旧石器と旧石器文化 3 宮古・八重山諸島の先史文化 第2章 琉球王国の時代 1 グスク時代と三山統一 2 中国との朝貢貿易 3 第一尚氏王統と第二尚氏王統 4 大交易時代と琉球の交易圏 5 先島の群雄割拠とオヤケアカハチの乱 * 1学期 中間考査	・沖縄の先史文化から、古代 から東アジア海域に交流があり、多文化共生がされてきたことを理解する。 ・宮古、八重山は独自の文化 圏を形成しており、沖縄内の 多文化性を理解する。 ・グスクの築かれた背景や古琉 球の社会の発展について理解するとともに、グスクをはじめとした文化財の保存、活用について考察する。 ・大交易時代の世界史的背景を 理解するとともに、琉球文化の独自性について理解し、文化の継承・発展について考察する。 ・宮古、八重山、奄美、久米島などの独自性を理解し、沖縄内での多文化性を理解する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
	6 7	第3章 薩摩の侵略と琉球王国 1 薩摩の琉球侵略と琉球統治 2 日清両属 冊封使と江戸上り 3 羽地朝秀と蔡温の改革 4 宮古・八重山の人頭税 * 1学期 期末考査 * 5 琉球王国の産業と文化 第4章 琉球王国から沖縄県へ 1 欧米列強の接近と幕府・薩摩藩の対応 2 ペリー来航と琉米条約 3 廃藩置県と旧慣温存	・薩摩の琉球侵略とその後の統 治、政治体制、社会について理解する。 ・宮古、八重山の人頭税はどのように行われたか理解する。 ・近世琉球で生まれた文化について調べ、現代の生活や行事と比較し、伝統・文化の継承発展について考察する。 ・琉球が日本に併合され、沖縄県が設置されたことを理解すると同時に、その背景に帝国主義をはじめとした世界史的原因があることを理解する。 ・廃琉置県はどのようにおこなわれたのか理解する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
2	9 ～ 12	4 近代沖縄の文化	・日清戦争後、近代的な文化がもたらされるようになったことを理解する。	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
		5 ソテツ地獄と南洋・南米移民 **史跡巡り** *2学期 期末考査*	○史跡めぐりのパンフレットを作成する。 生徒が割り当てられた場所を各自調べ、作成し、当日場所の説明を行う。実施後「史跡巡り MAP」を作成。	○	○	○	
		第5章 十五年戦争と沖縄 1 1920～30年代の日本を取り巻く状況 2 対米関係の悪化と日米開戦 3 十・十空襲と対馬丸	・沖縄戦がなぜおこったのか、世界史的な視野で理解する。 ・沖縄戦の実態を学習し、戦争の悲惨さと国際平和と人権尊重の重要性を理解する。 ・日本政府が決定した集団疎開と対馬丸の悲劇について状況を理解する。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
		4 宮古・八重山での戦争 第6章 米軍支配下の沖縄 1 ポツダム宣言と米軍の沖縄統治開始 2 米軍基地と島ぐるみ闘争 3 琉球政府の自治権 4 ベトナム戦争とコザ暴動 5 沖縄住民はなぜ「日本復帰」を望んだのか	・宮古、八重山の戦時中の状況についてマラリア被害をふまえながら理解する。 ・戦後の焼け野原から沖縄人がどのように立ち上がったのか状況を理解する。 ・サンフランシスコ平和条約が効力を発した後の沖縄での出来事を理解する。 ・アメリカ政府が初代の行政主席に比嘉秀平を任命した背景を踏まえて当時の状況について理解する。 ・ベトナム戦争が、沖縄の「祖国復帰運動」にどのような影響を与えたのか理解する。 ・「沖縄県祖国復帰協議会」の結成と住民の意思を踏まえて当時の状況を理解する。	○	○	○	
3	1 ～ 3	第7章 復帰後の沖縄 1 新生沖縄県の出発 2 西山事件～沖縄返還協定にともなう密約問題とは 3 復帰にともなう沖縄の変化 4 米軍基地と日本を取りまく国際情勢 5 21世紀の沖縄はどこへむかおうとしているのか *3学期 学年末考査*	・沖縄県民は日本復帰をどのように受け止めたのかを理解する。 ・密約問題と沖縄返還協定の内容を理解する。 ・通貨の切り替えや、復帰特別措置について理解する。 ・基地問題にゆれた1990年代を取り上げ、基地問題の変化を理解する。 ・現代沖縄の課題を挙げながら私たちにできることを考える。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査